



# ぎふ保環研だより

## 岐阜県における感染症の流行状況について

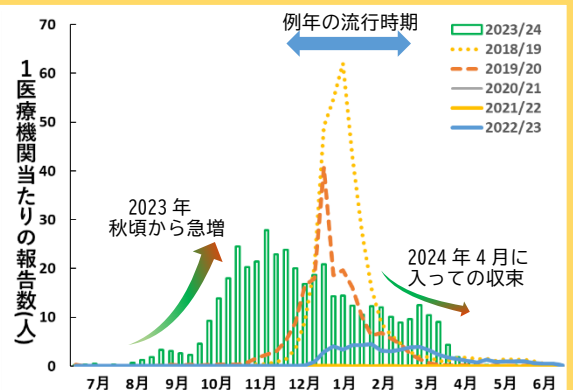
国内の感染症の流行状況は、法律に基づき都道府県等で行われている「感染症発生動向調査」により把握されています。各地域における患者発生情報を医療機関から収集・分析し、その結果が公表されています。この調査の取りまとめを行う機関として、各都道府県に「地方感染症情報センター」が設置されており、岐阜県では当所疫学情報部が「岐阜県感染症情報センター」の役割を担っています。

これまでの感染症発生動向調査により得られたデータと、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類感染症に移行した2023年5月以降のデータを比較することにより、いくつかの感染症で流行状況に変化が見られることが分かりました。

### インフルエンザ

流行時期：例年 12月～3月  
2023-24年 10月～4月

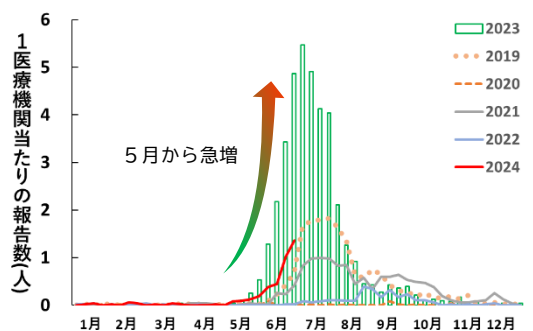
2023年は8月に早くも流行の兆しが見え始め、11月には流行のピークとなりました。その後減少傾向になるものの、2024年3月になっても、高水準を維持し、4月になってようやく収束しました。



### ヘルパンギーナ

症状：発熱と口腔粘膜の水疱性発疹  
主な患者：5歳以下の乳幼児  
流行時期：夏

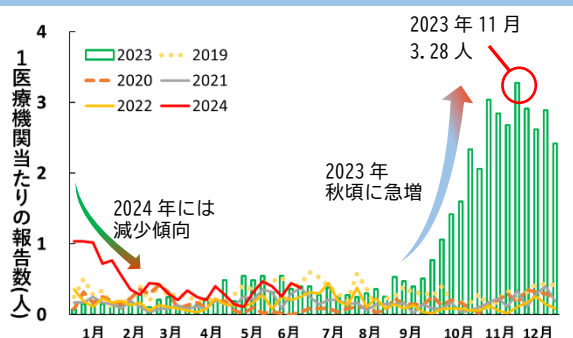
岐阜県ではここ20年ほど大きな流行はありませんでしたが、2023年は患者報告数が過去5年平均の約3.7倍と10年ぶりの流行となりました。2024年も5月頃から急増しています。



### 咽頭結膜熱

症状：発熱、喉や目の炎症  
主な患者：5歳以下の乳幼児

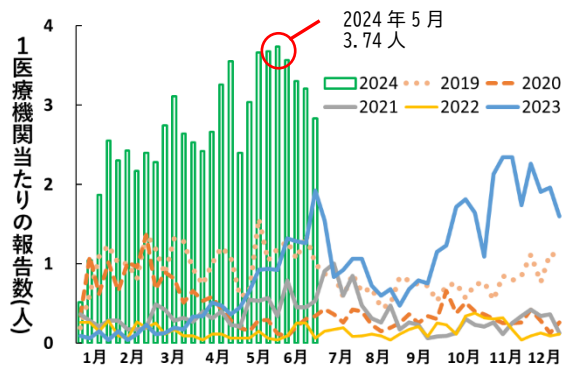
岐阜県ではここ15年ほど主だった流行は見られませんが、新型コロナ5類移行後に徐々に増加し、2023年11月には1999年の調査開始以降で最大の報告数になりました。



## A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

症状：発熱、喉の痛みや腫れ。まれに重症化し、喉や舌、全身に発赤が広がる「猩紅熱（しょうこうねつ）」に移行することがあります。

コロナ下において報告数は非常に少なかったですが、新型コロナウイルス 5 類移行後に徐々に増加し、2024 年 5 月には 1999 年の調査開始以降で最大の報告数になっています。

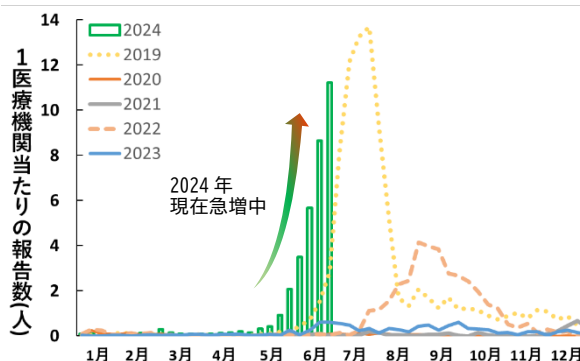


## 手足口病

症状：手のひら、足の裏や甲、口の中などの小さな水疱、（水ぶくれ）、軽い発熱

主な患者：5歳以下の乳幼児

2019年までは1年おきに大きな流行がありましたが、コロナ下で患者報告数は減少し、2022年夏すぎに小さな流行が見られたのみでした。しかし、2024年5月下旬から患者報告数が増え始め、現在急増中です。



これらの現象は岐阜県に限ったことではなく、全国的にも同様で例年と異なった流行が報告されている感染症が複数あります。原因の一つとして、新型コロナウイルスの5類移行後は、それまでの徹底した感染対策や外出自粛もなくなり、感染拡大防止効果が徐々に薄らぎつつあることが挙げられます。そのためこれまで抑えられてきた感染症が特異な発生動向を示したと考えられます。その他の感染症についても流行のパターンの予測がつきにくいことから、今後もコロナ下で学んだ感染対策を続けていくことが大切です。

（執筆担当：疫学情報部）

## 新所長からのごあいさつ

当研究所は、県民の皆様が自然豊かな環境のもとで健康に暮らしていただけるよう、保健・生活衛生分野及び環境分野における各種検査や調査研究を行っております。

感染症、食中毒、環境事故等様々な健康・環境危機事案発生時には、原因究明及び被害拡大防止のための的確な検査を速やかに実施するとともに、地域に根ざした調査研究の推進にこれからも努めてまいります。

この「ぎふ保環研だより」は、トピックスや当所の取り組みについてわかりやすく発信してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

岐阜県保健環境研究所 所長 村瀬 真子

編集・発行

## 岐阜県保健環境研究所

〒504-0838 岐阜県各務原市那加不動丘 1-1

TEL : 058-380-2100 FAX : 058-371-5016

URL : <http://www.health.rd.pref.gifu.lg.jp/>



ホームページもご覧ください